

令和5年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立障害者福祉センター えみふる	所在地	千代田区神田駿河台2-5
-----	---------------------	-----	--------------

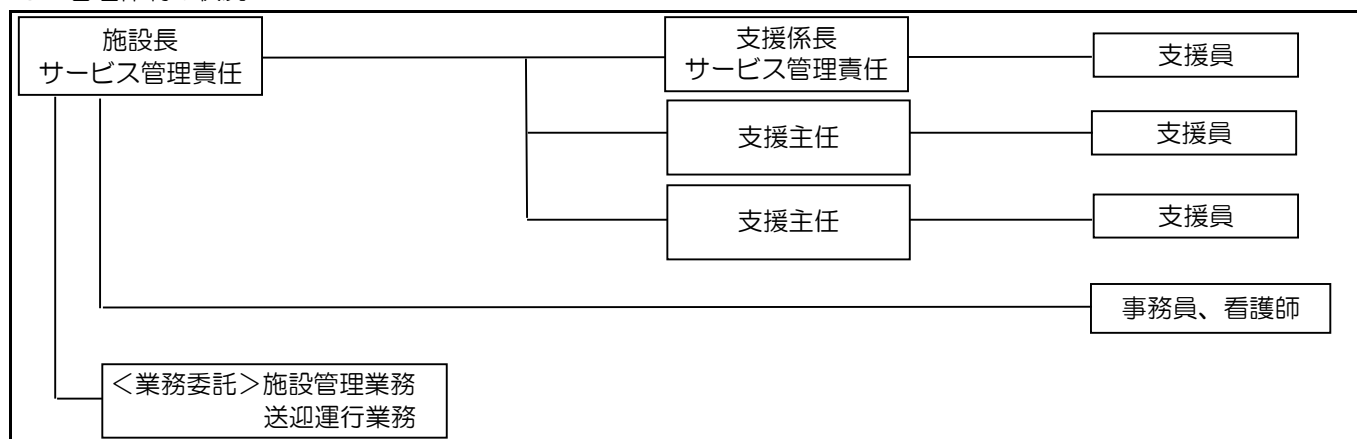
1 指定管理者の概要

名 称	社会福祉法人 武蔵野会	代 表 者	理事長 高橋信夫
所在地	八王子市旭町12-4日本生命ビル2F		
指定期間	令和2年4月1日～令和12年3月31日	報告期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	障害者基本法の理念に基づき、身体・知的・精神の三障害及び難病の方々が地域で安心して自立した生活を営めるよう、一人ひとりのニーズに応じたサービスを提供するだけでなく、集い、交流を深めることで、互いに助け合い、高め合い、共に生きることの喜びを共有できる場として障害者福祉センターを設置する。
管 理 業 務 の 内 容	(1) 地域活動支援センター (2) グループホーム、ショートステイ、特定相談、生活介護 (3) 施設及び設備の保守、維持管理

3 管理体制の状況



4 事業実績等

			計			地活計
			区民	他区	合計	
地域活動支援センター（Ⅰ型）	相談事業	福祉相談	300	631	931	14,705
		健康相談	384	0	384	
		計画相談	4,413	0	4,413	
		基幹型相談支援	513	50	563	
		虐待相談	10	0	10	
	ぷらっと御茶ノ水		505	17	522	
	療浴事業		258	0	258	
	行事・講座等		1,684	582	2,266	
	機能回復訓練事業	地域生活リハビリ	103	0	103	
		社会適応支援	125	0	125	
		PT・OT・ST	381	0	381	
	講習会		923	0	923	
	日中一時支援	スマイルちよだ	1,752	0	1,752	
		レスパイト	16	0	16	
		タイムケア	0	0	0	
	団体利用	利用団体数（実数）	162	0	162	
		利用人数	1,291	605	1,896	
グループホーム事業			1,460	0	1,460	
短期入所	利用者数	1,273	92	1,365		
	一時保護	0	0	0		
生活介護事業（契約者数）			126	0		126
生活介護事業（利用総数）			2,113	0		2,113
施設利用者合計			17,504	1,977		19,481

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料	247,118,599円	人件費（退職給与引当金含む）	209,373,377円
運営業務受託料	1,728,000円	事業費	33,915,585円
自立支援費等収入	73,094,181円	事務費	88,682,354円
その他の収入	1,699,285円	その他の支出	2,226,507円
合計（①）	323,640,065円	合計（②）	334,197,823円
収支差額（①－②）	△ 10,557,758		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
障害者福祉センターえみふるでは、障がいの有無に関わらず地域の交流促進に努めている。 交流人口は、22,422名と令和4年度の20,679名と比較して、1,743名の増加だった。新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたこともあり、納涼祭の規模を広げたり、宿泊バスハイクを再開したことなど、行事への参加者が増加したことが要因として考えられる。児童から高齢者まで、幅広い年代の方が参加しており、定期的に利用していた利用者だけでなく、新規での利用者も増えている。令和5年度から令和7年度の3年間をかけて、交流人口を25,000人にするという目標の達成へ向けて、障がいのあるなしに関わらず、誰もが利用でき、障害者の中に健常者、健常者の中に障害者がいるのが当たり前の環境となるように新たな取り組みをしている。	施設会計は15期目となる。千代田区の指定管理料は総収入額の76.45%になる。家賃助成金等の区助成金、共同生活援助、短期入所、特定相談支援、生活介護の障害者総合支援法の報酬や利用者自己負担、また、入浴サービス等の利用者利用料などの収入があった。これらの収入に関わる事業の利用率は、共同生活援助100%、短期入所92.6%、生活介護43.3%だった。 令和4年度の収入と比較して、指定管理料11,828,401円の減少、自立支援費等収入2,492,391円の減少、その他の収入685,138円の増加で合計13,635,654円の減少となった。自立支援費収入が減少した要因として、生活介護の利用者が減ったこと、その他の収入が増加した要因として、保険金の受け取りや販売品の収入が考えられる。 支出は、人件費12,632,513円の増加、事業費3,416,456円の増加、事務費13,597,925円の減少、その他の支出9,944,092円の減少で合計7,493,048円の減少となった。これは、職員数の増加、行事の再開と拡大が要因として考えられる。 今後も事業内容の精査や効果検証を行い、収支の安定を図っていく。

7 区による評価・業務改善要求

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により中止・縮小されていた宿泊バスハイクや納涼祭等のイベントについて新型コロナウイルス感染症流行前と同じ規模、水準で実施でき、交流人口も増加しているため、障害のあるなしにかかわらず誰もが利用できる環境作りが進められていると評価している。

一方、ローテーション勤務のある福祉現場において、伝達した情報の職員間における共有が課題であるため、職員間の連携をさらに強化できるよう改善していただきたい。

8 今後の指定管理に区が期待すること

区内における相談支援サービスの需要は年々増加してきており、その内容は複雑・多岐にわたる。地域の相談支援の中核的な役割を担う存在として、地域の相談支援事業所等の関係機関との連携強化に取り組んでいただきたい。

また、令和6年4月に自主事業として新たにコミュニティカフェ「ちよだんごカフェ」を開設したため、えみふるが障害等をお持ちの方にとって、就労体験などの多様な社会参加の機会創出や居場所づくり、地域とのふれあい促進に寄与する施設となることを期待したい。